

ノリ養殖場にボート接触回避へ

レーダー反射器手作り

四日市海保が考案、普及図る

四日市海上保安部は、ノリ養殖用の網とプレジャーボートの接触事故を防ぐ手作りのレーダー反射器「みえなア缶」を考案した。「網設置用の竹さおの先に付ければ、事故防



レーダー電波を跳ね返しやすいよう、面を多くとった八面体の反射器＝四日市海上保安部で

止に効果大」と漁業者らに作り方を広めている。

用意するのは、アルミ缶（五百ミリ用）三個に、穴を開ける千枚通しや接着用のアルミテープ。はさみで缶を切り開き、正方形三枚を作って切り込みを入れ、組み合わせて接着し、八面体を作る。レーダーが感知しや

すいよう、つるす角度も研究した。「実験では感度は良好。試してみようとしたプレジャーボート利用者にも好評でした」と、考案の中心となった交通課員は話す。

ノリ養殖業者をはじめ、漁協関係者、プレジャーボートの利用者にも作り方を広める予定。「ボート自体には

反射器の設置が義務付けられているが、付けていない場合が多い。事故を防ぐお守りのような感じで、一個より二個、二個より三個とつけてほしい」と呼び掛けている。

七月にある海難防止を呼びかけるイベントで配布したり教えたりする予定。作り方はホームページにもある。

（小林迪子）